

序論	3
----	---

第一節 幕藩制国家論のその後と日本中近世国家論	3
第二節 「徳川国家」論の限界	9
第三節 権門体制論と近世の天皇・朝廷	15
第四節 「政治史」の発展的継承と本書の課題	21
第五節 王権論に対する本書の立場	26

第一部 豊臣秀吉・徳川家康の神格化と天皇

第一章 慶長期初頭の政治情勢と豊国大明神	51
第一節 豊臣秀吉の遺言変更をめぐって	57
第二節 豊国大明神号の創出と後陽成天皇・豊臣家・徳川家康	62
第三節 徳川家康の源氏改姓と豊国大明神	71

第二章	東照大権現号の創出と徳川秀忠	89
第一節	徳川家康の久能山埋葬前後の状況	92
第二節	久能山における神龍院梵舜の作法の歴史的位置	96
第三節	天海の意見具申の内容と徳川秀忠による権現号奏請	97
第四節	吉田家による対抗運動とその論理および限界	99
第五節	徳川秀忠の国家構想と東照大権現号	104
第三章	徳川家光の国家構想と日光東照宮	113
第一節	近世前期の神国思想をめぐって	113
第二節	日光東照社大造替および『東照社縁起』真名本上巻作成と徳川家光	116
(1)	大造替と縁起作成の当初の目的について	116
(2)	寛永十三年段階における徳川家光と伊勢の神々	117
第三節	『東照社縁起』追加作成と將軍権力	124
第四節	東照社への宮号宣下と日光例幣使發遣奏請・決定の政治的背景	132
第五節	徳川家康・秀忠の叙位任官文書再作成と東照宮号宣下との関連性	136
第六節	東照宮号宣下の発案時期	144
第七節	国家鎮護と徳川家光	148

第二部 身分集団としての禁中・公家中と江戸幕府

第一章 近世の堂上公家と身分制……………167

第一節 公家身分論をめぐる諸問題……………167

第二節 後陽成天皇・大御所徳川家康と公家の「外聞」——猪熊事件をめぐる——……………175

第三節 秀忠・家光政権による公家の放埒行為への対処方針とその特質……………179

第四節 武家伝奏中院通茂の禁中・堂上公家論と家綱政権……………183

第二章 領主としての公家と家綱政権……………202

第一節 延宝二年の山城国大洪水と同国紀伊郡石原村の公家領主……………205

第二節 延宝二年の公家領水損をめぐる幕府上方支配機構の対応……………214

第三部 徳川將軍家の国家構想の継承と限界

第一章 天和・貞享期の綱吉政権と皇位……………235

第一節 天和期の皇位継承者選定過程と綱吉政権……………239

第二節 天和・貞享期の関白・京都所司代人事と徳川綱吉……………252

第三節 貞享期における霊元天皇讓位・大嘗会再興と綱吉政権……………257

第二章	元禄・宝永期の徳川綱吉と「かけまくもかしこき日のもと	272
第一節	綱吉政権期における諸儀式・諸寺社等再興の特徴	274
第二節	徳川綱吉・桂昌院による伊勢神宮・内侍所での祈禱とその目的	277
第三節	徳川綱吉と東照大権現・日光東照宮	283
第四節	元禄・宝永期における東山天皇の讓位問題と徳川綱吉	295
結 論		313
補 論		343
書評	田中暁龍著『近世前期朝幕関係の研究』	343
書評と紹介	藤田覚著『近世天皇論 近世天皇研究の意義と課題』	355
初出一覧		
あとがき		
索引		

序論

第一節 幕藩制国家論のその後と日本中近世国家論

近年、小沢弘明氏は昨今の日本史研究における国民・国家・国民国家等の語の使用方法を批判し、次のように指摘している。

日本史研究では、研究者のなかでも国民の概念を前近代に遡及させようとする場合がある。たとえば、永井隆之・片岡耕平・渡邊俊編『日本中世のNATION——統合の契機とその構造』（岩田書院、二〇〇七年）。その理由は次の三点にまとめることができよう。第一に、国民国家形成以前の結合関係を表現するエトノスのような概念を持っていないため、国民概念しか利用できていないこと。第二に、市民的国民と民族的国民を区分したうえで、その相補性について議論するのではなく、両者を混然とさせたまま、論者によって任意に国民概念を使用していること。第三に、国民概念の歴史的語法に無頓着なため、その歴史的排他性を理解できていないこと。⁽¹⁾

すなわち、そこでは日本史学者の「国民」または「国民国家」概念への安易な寄りかかりが指摘され、皮肉なことに、歴史家であるはずの日本史学者が「国民」または「国民国家」概念の歴史性を考慮できていない現実が突きつけられたのであった。

日本近世史の立場から一研究者として自戒しながら筆者なりに振り返ってみると、日本近世史の場合、当該分野においてはかなり真剣に国家論・国家史に取り組んだ経緯があり、その議論は幕藩制国家論として整理・記憶されるほど盛んになされた。ところが、問題はそのあとであった。この点について、藤井讓治氏は次のように指摘している。

七〇年代の半ばになると、国家論が議論されるようになった。その結果、権力論・政治史研究に一定の関心が注がれるようになり、自らの研究もそれなりに位置づけることができた。しかし、幕藩制国家論は、権力のみならずあらゆるものをその対象としたため、研究対象・課題は拡散していき、権力構造、鎖国制、天皇・朝廷研究などに一定の成果をみたものの、全体としては明確な成果も反省もないまま後景に退いていった。⁽²⁾

白川部達夫氏・村田路人氏によれば、幕藩制国家論は、近世日本の体制について、幕府という強大な権力に基づいた封建国家という認識を前提としつつも、土地制度論に還元されがちであった幕藩制構造論を批判的に克服するため取り組まれたが、藤井氏も述べるように論点の拡散を招いてしまった。⁽³⁾

さらに筆者なりに幕藩制国家論が後退した原因を考えると、そもそも各研究者が冒頭の小沢氏のように「国民」や「国家」という語の歴史性に徹底的にこだわらなかったことも一因のように思われる。もちろん各研究者は、各歴史的段階における「国家」の形成過程を説明しようとしたのだが、そこでは先行国家と後続国家との関係が十分な意味的検討を経ない「国家」という語で連続させられてしまい、研究方法として各段階の現象面や機構・法制の比較に終始した感は否めないのである。

もし仮に当時の国家観・国家像を問題とするならば、当時いかなる用法で「国民」または「国家」なる語が使用されたかを丹念に段階的に押さえることが肝要である。現象面の比較をし尽くした幕藩制国家論は、みずから

の立脚した「国家」という語を当時の文脈において再検討しないまま終息してしまったのである。

幕藩制国家論が終息してから今日に至るまで、研究状況としては政治史・国家史が語られることは少なくなつた。ところが、冒頭で小沢氏が指摘したように、日本中世史の分野では最近、別の角度からの国家論が提起されつつある。なかでも注目すべきは、勝俣鎮夫氏による次のような議論である。

この時代（戦国時代——引用者註）は、日本列島に居住するさまざまな民族が国民として把握され、この国民を構成員としてつくられた国民国家的性格の強い国家の形成期であつた。ここで形成された国家の支配領域は、ほぼ現代の日本国家の国土に重なるが、この日本国家は、伝統的東アジアの国際的秩序である中国を中心とする華夷秩序から脱した独立国家として登場する。

さらに、この国家は、王法と仏法は両輪といわれ「マツリゴト」を政治の基本とする国家体制から脱した、武家による俗的国家として成立した。武家勢力は強大な勢力をほこつた寺社勢力を圧伏し、これらの勢力を解体して体制下にくみ入れたのであり、ここにはじめて政教分離の俗権力による国家が成立した。

戦国時代においては、その前段階として、この日本国家の原型としての地域的な国家が各地に形成され、さらにそれを統合することにより、豊臣秀吉によって日本国家が創出された。以上のように、この時代に形成された新しい日本国家は、旧来の日本国家が分裂し、それが再び統合されたのではなく、旧来の日本国家の規定制を強くうけながらも、それぞれの地域で下のほうから地域的結合がなされ、その上に新しい統一国家が形成されたのであり、そこに内藤（湖南——引用者註）のいう「日本全体の身代の入れ替り」という現象がおこつたのである。⁽⁴⁾

ここでは、「民族」や「国民」、「国家」の語の使用のみならず、戦国時代を「国民国家的性格の強い国家の形成期」だとしている。「国民国家的性格の強い」とあるから、勝俣氏は戦国時代が国民国家の形成期であると述

べているわけではない。しかし、勝俣氏が戦国時代にその段階独自の統合がなされた様子を強調して叙述するため、「国民国家的性格」という語を使用したのだとすれば、それは小沢氏の批判のほうに分があるといわざるを得ないだろう。⁽⁵⁾この勝俣氏の主張はどのように立論されているのだろうか。このことを考えるうえで、勝俣氏による次の記述は参考となる。⁽⁶⁾

高柳（光壽——引用者註）は、「古代国家日本は決して単一国家ではなかつた。原始神社は、それぞれ独立した政権であつた。それがだんだんと大きな一つの政権の政治機構の中に編入されて行つた」「要するに地方独立政権の中央政権への吸収といふことは長い時間を要したのであり、その完全なる中央の政治機構への編入といふことは近世を待たなければならなかつた」とのべ、中世を日本における統一国家形成過程の時代と位置づけた。そして、戦国時代にいたり、「完全に近き形において一地方を領有し支配する地方政権の成立を見」、戦国時代を経てはじめて、わが国は「中央集権的有機的組織を持つ国家組織」へと発展することができたとして、日本国家成立の原点に戦国大名領国を置いたのである。^{(註(3)あり)}

勝俣氏は高柳光壽氏の学説を援用するのだが、それは勝俣氏によると、高柳氏が中世日本における「統一国家形成過程」を独自に位置づけ、そこからその後の「中央集権的有機的組織を持つ国家組織」を展望していたからである。勝俣氏はさらにいう。

以上の如き高柳の学説は、中世社会の実態——土地と人の支配の分裂、枅や田積にみられる度量衡の多様性、「租税」の多種多様な賦課形態など——から国家のありかたを検証するかたちでくみ立てられたものである。この国家論の視角は、なお種々の問題を含んでいるとはいえ、石井進の評価するように、「もうひとつの国家論」構築の視角として、今日ますます重要性をましつつあるように思われる。

本章（勝俣氏著書の第Ⅰ部第一章——引用者註）では、高柳が日本国家形成過程における、その原型と把握し

〈初出一覧〉

*いずれも本書再録にあたり題目・内容を適宜改題・改稿

序 論 「日本近世国家論序説——「日本国」概念の再検討——」〔『防衛大学校紀要（人文科学分冊）』第九九輯、二〇〇九年十月〕

新稿

第一部 豊臣秀吉・徳川家康の神格化と天皇

第一章 「豊国大明神号の創出過程に関する一考察」〔『史學雜誌』第二二一編第十一号、二〇一二年十一月〕

第二章 「東照大権現号の創出と徳川秀忠」〔『日本歴史』第七六九号、二〇一二年六月〕

第三章 「徳川家光の国家構想と日光東照宮」〔『日本史研究』第五一〇号、二〇〇五年二月、のち『日本近世国家の確立と天皇』

清文堂、二〇〇六年に改稿して再録〕

「東照宮号宣下をめぐる政治過程再考」〔『史海』第五五号、二〇〇八年五月〕

新稿

第二部 身分集団としての禁中・公家中と江戸幕府

第一章 「近世前期の幕府による公家への行動規制と身分制」〔『ヒストリア』第三三〇号、二〇一二年二月〕

第二章 「延宝期の公家領主と幕府上り支配機構」〔『論集さんせい』第三二二号、二〇一〇年五月〕

第三部 徳川將軍家の国家構想の継承と限界

第一章 「天和・貞享期の綱吉政権と天皇」〔『史林』第九三巻第六号、二〇一〇年十一月〕

第二章 「元禄・宝永期の綱吉政権と天皇」〔『歴史の理論と教育』第二三七号、二〇一二年五月〕

新稿

結 論

補 論 「書評 田中曉龍著『近世前期朝幕関係の研究』」〔『日本史研究』第五九八号、二〇一二年六月〕

「書評と紹介 藤田覚著『近世天皇論 近世天皇研究の意義と課題』」〔『日本歴史』第七七七号、二〇一三年二月〕

あとがき

本書は、筆者にとって二冊目の論文集であり、平成十九年（二〇〇七）の防衛大学校着任後の業績を中心にまとめたものである。第一部第三章は、一冊目の論文集にも収録した論稿が基になっているが、このたび現在までの筆者の研究成果とともに、これまで筆者に頂戴してきたご批判・ご指摘もふまえ、大幅に改稿したものである。なお、本書における史料の引用等にあたっては、刊本からの場合、引用元における読点や漢字の用法に極力従ったが、一部旧漢字を当用漢字に改め、明らかな誤りと思われる場合等には一部私見を反映させているので、あらかじめご了承願いたい。

本書の刊行に際しては、公益財団法人防衛大学校学術・教育振興会から出版助成を受け、公益財団法人防衛大学校学術・教育振興会の皆様と防衛大学校に設置された出版助成検討委員会の先生方、そして史料や写真の使用をお許しくださった関係者・関係機関の皆様、株式会社思文閣出版の長田岳士氏・田中峰人氏には大変お世話になった。ここに厚く御礼を申し上げる。また、索引の作成と表紙には家内の協力を得た。あわせて感謝の意を表したい。

結論において筆者は、少なくとも近世前期の天皇が、氏姓制と神国思想、そして儒教思想を背景としながら、次第に徳川歴代將軍によって「君」と位置づけられるようになっていくことを述べ、徳川綱吉は、徳川家光ほど神国思想に立脚しないものの、天命の改まっていない状態をあえて凍結することと徳を示し、日本国におけるすべての政をすべき身として自身を位置づけていたことなどを述べた。

このあり方について、徳川家宣以降の將軍がどのように捉え、変化させていったのかは筆者の今後

の分析課題である。そして最近は、さらにその先の時代にも関心がある。だが、筆者なりに日本の近現代における天皇のあり方をも視野に入れてみると、華族制度に移行していく中で公家と武家の身分的出自を持つ家々のあり方は前近代と大きく異なっていくであろうし、また氏姓制や儒教思想は近現代の政治家や国民の意識において次第に主要な位置を占めなくなっていくと思われ、さらに近代の神国思想も中近世のそれとは様相を異にし、しかも現代の日本では日本国憲法第一条で天皇の地位が規定される一方、日本国憲法第十四条の規定によって門地による差別や華族と貴族制度は否定されているから、日本史上の天皇の存在とその存在基盤を通史的に的確な言葉で段階的に説明することの難しさをあらためて痛感させられる。

おそらく日本の近世における天皇のあり方を分析することは、西川誠氏の『天皇の歴史07 明治天皇の大日本帝国』（講談社、二〇一一年）が指摘するように、日本の近現代に失われたり、付加されたものを浮かび上がらせ、逆照射する作用をもっていると思われるが、研究を進めれば進めるほど問いは多くなり、みずからの研究課題の困難さと複雑さに戸惑わざるを得ない。

思考の体力があるうちに、どこまで進むことができるのかはわからないが、少しずつ前進するしかないところでは考えている。

平成二十六年（二〇一四）十一月二十九日

野村 玄

山口和夫 44, 84, 136~9, 142, 167~9, 171~
4, 192~5, 201, 214, 230, 254, 267, 332,
349, 353
山澤学 108, 136~9, 142, 145, 146, 160, 161
山本博文 29, 30, 44, 46, 84, 86, 125, 129, 131,
135, 153, 156~9, 162, 192, 271, 314~6,
332, 334, 335, 339, 353

よ

吉岡真之 305
吉田賢抗 340
吉田伸之 36, 171, 173, 193, 196
吉田洋子 85, 159, 317, 333, 334
米田雄介 137, 139~42, 160, 161, 240, 265

ろ

ロナルド・トビ 135, 151, 159, 163

わ

若尾政希 341, 342
脇田修 75, 196, 202, 229
渡邊俊 3
渡辺浩 31, 34, 47, 340

な
内藤湖南 5
永井隆之 3
永島福太郎 307, 340
永積洋子 159
中野等 65, 67, 68, 83~5, 332
中野光浩 158
永原慶二 39, 154, 196, 231, 333, 341
中村孝也 73, 78, 86, 132, 159
中村質 86, 157
中村栄孝 44, 72, 80, 81, 84~6, 332
中村幸彦 334

に
西川誠 362
西垣晴次 108, 109, 153, 338, 339
西山厚 305
西山克 75

は
橋本政宣 23, 41, 44, 79, 197, 202, 228, 338
羽中田岳夫 306
林観照 110
早島大祐 33
速水融 159, 163
原秀三郎 37, 76, 107, 152, 194, 263, 332, 352, 359

ひ
日埜博司 336
平石直昭 47, 304, 312, 341
平井誠二 183, 185, 196, 198
平川新 38, 80, 81
平川南 8

ふ
深井雅海 265
深谷克己 30~2, 35, 36, 41, 47, 80, 152, 167,
171, 173, 192, 200, 340
福井保 340
福田千鶴 307
藤井譲治 4, 11, 25, 32, 35, 42, 52, 60, 63, 74,

76, 78, 79, 87, 91, 109, 129, 153~5, 157~
63, 176, 179, 196, 197, 231, 232, 305, 314
~6, 324, 325, 333~5, 338
藤田覚 24, 42, 162, 163, 181, 195, 198, 266,
311, 339, 340, 349, 351, 353~9
藤田恒春 79, 194
藤野保 200

ほ
堀一郎 338
堀新 28~30, 32, 43, 44, 46, 71, 76, 80, 86,
192, 194, 197, 200, 318, 335, 337

ま
間瀬久美子 117, 154, 155
松澤克行 46, 88, 200, 201, 310, 353
松田毅一 43, 76, 78, 80, 81, 83~5, 87, 107,
108, 336, 337
松本和也 46
松本礼子 192
丸山眞男 37, 339, 341

み
三枝暁子 36, 39
三上参次 344, 350, 356
三鬼清一郎 75, 77, 78, 107
水本邦彦 8~12, 14, 15, 34, 35, 202, 204, 229
宮坂宥勝 337
宮沢誠一 200
宮地直一 75
宮地正人 152

む
村井早苗 157
村井章介 42, 43
村和明 231, 353
村田路人 4, 32, 231

や
安岡重明 202, 228
柳田國男 77, 318, 335
矢野公美子 181, 198
藪田貫 200, 202~4, 227~9

清瀬卓 81

く

久保貴子 240, 242, 243, 246, 252, 258, 265,
302, 304, 310, 311, 333

熊倉功夫 181, 182, 198, 338

倉地克直 77, 87

黒住真 47, 304, 341

黒田俊雄 7, 17~20, 22~4, 26, 27, 32, 33,
37~9, 41~3, 328, 339

け

ケイト・W・ナカイ 31, 47, 304, 312, 341

こ

小島康敬 47, 304, 341

後藤陽一 45, 46, 270

小林一成 108, 109, 153, 338, 339

小松茂美 155

小宮木代良 157, 159, 160, 162

さ

斎藤夏来 43

酒井信彦 77

阪倉篤義 334

佐藤任 337

佐藤雄介 229

し

塩川伸明 32~4

白川部達夫 4, 32

す

菅原信海 109

鈴木壽 228, 231, 232

せ

千田嘉博 107

そ

副島種経 108, 109, 111, 337

曾根原理 78, 91, 108, 109, 116, 153, 155, 341

杉田善雄 275, 305

た

平重道 338

平雅行 156

高木昭作 25, 42, 52, 75, 86, 114, 125, 126,
152, 153, 156, 157, 160, 168, 169, 171~4,
192, 195, 196, 315, 317, 334

高澤紀恵 192

高瀬弘一郎 80

高埜利彦 15~7, 19, 20, 36, 37, 39, 40, 152,
155, 158, 172, 192, 193, 195, 196, 235, 238,
239, 261, 264, 265, 267, 271~3, 283, 285,
304~10, 312, 341, 349

高橋秀直 358

高柳光壽 6, 7, 33, 108

竹内照夫 341

竹内誠 229

竹内理三 194

武部愛子 157

武部敏夫 196, 239, 240, 265, 304, 349

田中暁龍 183~5, 198~200, 258, 259, 264,
269~71, 304, 343~5, 348~50, 352~4

ち

千葉栄 75

つ

塚田孝 36, 196

塚本学 23, 41, 265, 267, 269, 284~7, 289,
292, 306~10, 312

辻善之助 84, 98, 108, 109, 132, 157, 158,
163, 194, 354

辻達也 265, 267

津田三郎 77

て

寺嶋一根 85

と

東光博英 43, 107, 108, 336

友枝龍太郎 45, 46, 270

鳥居正雄 87

【研究者名】

あ

- アーネスト・ゲルナー 33, 34
 相田二郎 143
 朝尾直弘 17~26, 32, 34~42, 52, 75, 76, 87,
 107, 109, 112~4, 150, 152~4, 156, 158~
 60, 162, 163, 168, 169, 171~4, 191~6,
 200, 201, 235, 238, 263, 264, 274, 304, 328,
 332, 350~4, 358, 359
 芦原義行 79
 跡部信 67, 74, 76, 78, 79, 82~4, 86~8, 332
 安良城盛昭 196
 有水博 336
 アンソニー・スミス 33, 34

い

- 家入敏光 76, 81, 83~5, 336
 井形朝良 85
 池享 194
 井ヶ田良治 202, 228
 井澤潤 129, 158
 石井進 6, 7, 9, 14, 33
 石田俊 266, 296, 297, 310, 311, 339
 伊藤真昭 86, 87
 井上智勝 112, 305, 312, 318, 335, 337, 338
 今谷明 88, 155, 306
 今福匡 337
 岩沢愿彦 80, 333
 岩田重則 318, 335, 337

う

- 上野洋三 306, 340
 魚澄惣五郎 75
 宇佐美尚穂 305
 輒矢嘉史 154
 浦井正明 91, 94, 96, 99, 109

え

- エリック・ボブズボーム 33

お

- 大津透 43, 44, 201, 267
 大西源一 117, 154, 307, 308
 大野瑞男 306
 大森映子 308
 大屋敷佳子 205~7, 216, 230
 岡野友彦 71, 86
 岡見正雄 334
 岡村多希子 78
 小川和也 268, 269, 341, 342
 奥野高廣 197
 小倉宗 204, 229, 230
 小沢弘明 3~6, 32
 折口信夫 338
 小和田哲男 71, 86

か

- 海津一郎 159
 笠原綾 306
 笠谷和比古 47, 71, 86
 加澤昌人 337
 片岡耕平 3
 勝俣鎮夫 5~9, 14, 33
 鎌田純一 86, 108, 109, 155
 河内将芳 51~4, 57~9, 65, 75~8, 108
 川勝平太 159
 川勝守 159
 河上繁樹 82
 神崎充晴 125, 155, 156
 神田千里
 7~9, 14, 34, 81, 318~20, 322~4, 335~7

き

- 鍛代敏雄 77, 78
 北島正元 108, 109, 197, 200
 北島万次 84
 木村修二 200
 木村展子 68, 69, 77, 85
 ギョーム・カレ 192, 193

244, 245, 248, 249, 252, 255, 258, 261, 262,
 275~7, 280~2, 295, 296, 298, 300~2,
 345~8
 伏見城 57~9
 武州 147
 文禄・慶長の役 21, 325, 326
 文禄の役 66
 へ
 北京 66, 67, 313
 ほ
 方広寺 314
 放伐思想 331
 ま
 マニラ 125
 み
 三河 89, 324
 妙法院 54
 明(国) 12, 21, 28, 63~70, 74, 135, 313, 325
 明清交替 328
 め
 目付 219, 247, 289
 も
 紅葉山 331
 紅葉山東照宮 283
 や
 山城(国) 61, 202, 204, 205, 207, 219, 224~6
 ゆ
 唯一宗源神道
 51, 90~2, 95, 97~9, 101, 104~6, 325
 り
 李氏朝鮮 65, 68, 70
 立后 241, 250, 251
 立太子 241, 250, 254
 立太子節会 239~41, 246, 252, 263

立坊 250, 251
 ろ
 老中 9, 118, 121, 183, 185, 213, 221, 222,
 224, 228, 241, 252~4, 256~60, 263, 275,
 288, 293, 295, 328, 348
 六人衆 118, 119
 わ
 若狭国 121
 若年寄 285

ち
地縁の・職業の身分共同体 168, 173
朝鮮(国) 21, 32, 63, 65, 66, 68, 70, 115,
125, 170, 284, 286
朝鮮通信使 286, 287
朝鮮半島 51, 66, 67, 313
儲君 240～3, 245～52, 254

て
天子 23, 24, 27, 74, 186, 326, 330～2
伝奏 100, 104, 141, 173, 179, 186, 216, 225,
245, 247, 251, 254, 256, 258, 261, 296, 298
伝奏衆 89, 104
天台(宗) 101, 103, 104, 325
天和改元 244
天命論 31, 331

と
東宮 240, 241, 246, 247, 249～51, 255, 258, 259
堂上方 214～7, 221, 222, 228, 256
東照権現 15, 129, 283, 284, 295
東照大権現 25, 89, 91, 92, 104, 117, 124,
125, 128, 129, 132, 136, 137, 142, 145, 147,
148, 150, 272, 274, 283, 284, 286, 292, 294,
295, 324～8, 331, 332
東大寺 51, 58, 275
唐朝 329, 330
多武峯 90, 116
徳川体制 23
豊蘆原の国 63
豊葦原中津国 51, 59
豊国大明神 25, 51～4, 57, 59～66, 68～71,
74, 91, 97, 99, 324～6
豊臣体制 22, 54, 62, 74, 313

な
内宮 117～9, 121, 123, 124, 148, 242
内侍所 181, 242, 280～2, 295, 329
内証(内證) 104, 249, 281, 295～7, 302, 303, 315
内府 61, 62, 72, 240

長崎 57, 67, 69, 113, 149, 320, 321
名護屋 21, 66

に
日光 96, 97, 101, 103, 104, 133, 136, 142,
284～94
日光山 89, 90, 97, 98, 116, 139, 140, 286～8, 324
日光社参 283～8, 290～2, 294, 295
日光例幣使 115, 132, 135, 136, 148
日本国 7～15, 21～4, 26, 27, 32, 53, 65, 67
～70, 73, 74, 95, 105, 150, 186, 187, 313,
320, 321
日本宗 319, 320, 322～4, 327
女御 180, 241, 242, 246, 247, 298

ね
年頭御礼 118
年頭拝賀 117
年頭拝賀前後争論 117

の
濃毘数般国 106

は
廃位 296, 300
大泥国 72, 73
八幡宮 132
八幡神 74, 129, 136
八州 89, 132, 203, 324
伴天連追放令 126

ひ
東アジア法文明圏 30, 31
東山 51, 58～61, 64
秀吉型・家康型神国思想 126, 148
秀吉型神国思想 113

ふ
武家諸法度 18, 23, 27, 168, 191
武家伝奏 100, 101, 103, 118, 119, 121, 123,
141～4, 147, 170, 176, 183～5, 190, 191,
205～8, 210, 212～5, 217～24, 241, 242,

国家鎮護 136, 148, 150, 151, 328
五奉行 61

さ

冊封 29, 32, 64, 65, 67, 69, 70, 313
佐州 247, 296
左大臣 239, 242, 252, 253, 314
薩摩(薩摩国) 170, 177
佐渡嶋 244
佐渡国 183, 185
左府 240, 252
佐和山 54
三国国割 28, 66
三国世界観 113
山王一実神道 90~2, 101, 104, 325
山王神道 90, 95, 116, 117
山王之神道 95, 105

し

紫衣事件 27
地方 204, 205, 214~7, 221~3, 226~8
寺社御奉行衆 118
寺社奉行 117, 118, 121
至徳 330, 331
島原 7, 319
島原・天草一揆 181
島原の乱 7, 12, 125, 148, 149, 318
清水 94
下野国 98, 143, 144
社参
93, 101, 124, 129, 283~92, 294, 295, 327
暹邏国 105, 106
周 330
修陵事業 276
巡見使 150
将軍権力 28, 124, 129, 131, 149~51, 168,
171~3, 238, 273
青蓮院 132
所司代 205, 206, 281, 297, 348
諸宗山本山寺法度 23
女帝 298, 300~2
神国思想 21, 24, 25, 106, 113~5, 126, 148,
182, 319, 320, 322, 323, 331, 361, 362

新嘗会 275
親王宣下 241, 250, 251
陣儀 317, 318, 330
新八幡 25, 51~4, 57~60, 62, 65, 68, 69, 74,
324, 325

す

駿州 92, 141
駿府 92~4, 97, 98, 176, 177
駿府城 93, 95, 98

せ

政権構想 18, 20, 235, 274, 351, 359
関ヶ原合戦 71
摂州 219
摂政 46, 119, 121, 123, 182, 191, 262
摂津国 204
遷宮 95~9, 103, 104, 116, 118, 121

そ

宋 135
増上寺 89, 92, 138, 324
奏請 25, 97, 99, 115, 132, 135, 146, 276,
281, 295, 325, 326, 328
尊号一件 351

た

大覚寺 242, 243, 245, 247, 248
大樹寺 89, 324
大嘗会 123, 239, 240, 257, 259~63, 274,
275, 349
大織冠 90
大造替 115, 116, 326
大仏鐘銘事件 68
大陸 28, 29, 67, 113, 313, 317, 329~32
大老 71, 248
太政官符 132, 135, 144
太政大臣 61, 326, 356~8
館林(城) 249, 284, 285, 303
多摩郡 147
手向山八幡宮 51, 58

お
 応仁の乱 27, 328
 王覇論 30, 31, 331
 近江 54
 大坂 205
 大坂城代 256
 大坂夏の陣 23, 314
 大坂冬の陣 74
 大原野 183, 185
 大目付 285, 289
 隠岐島 177
 小倉事件 242, 243, 248～50, 253
 乙訓郡 202
 小浜 121

 か
 河州 219
 風宮 133, 146～8
 風社 133, 135, 145, 148
 貨幣改鑄 292
 上方 21, 100, 104, 204～7, 222, 223, 228,
 248, 249
 賀茂 136, 219
 賀茂社 275
 賀茂祭 275
 唐(から) 113, 131, 151, 261, 315～7, 330
 唐入り 28, 29
 河内国 204
 寛永飢饉 150
 寛永寺 275, 276, 285, 294
 勧請 89, 96, 97, 103, 128, 324
 官宣旨 143, 144
 関東 241, 251～3, 255, 256, 275, 276, 280,
 285, 295～7, 300
 観音寺村 209
 関白 28, 71, 170, 176, 180, 191, 239, 240,
 250, 252～4, 256, 258, 261, 275, 296, 346,
 348
 関八州 132, 203

 き
 紀伊郡 205, 207, 208, 210～2

議奏 296～8, 344～8, 350
 畿内 202～5
 君 23, 24, 90, 137, 145, 326～30, 361
 官号宣下
 15, 115, 132, 133, 135～8, 142, 144～8, 328
 京都(京) 21, 51, 58, 61, 99～101, 118, 119,
 143, 147, 168, 177, 186, 205, 251～3, 256,
 257, 285
 京都所司代 176, 183～5, 187, 190, 206, 211,
 212, 214, 216, 217, 221～4, 226～8, 244,
 251～8, 262, 263, 275, 276, 296, 297, 300,
 301, 328, 343, 344, 347, 348, 352
 京都代官 218～21, 224～6
 京都町奉行
 205, 206, 215～7, 220, 221, 223, 247
 禁中并公家諸法度 18, 22, 23, 27, 179
 禁中并公家中諸法度
 23, 27, 74, 168, 191, 314, 326, 345
 禁裏附
 184, 206, 215～8, 221, 223, 243, 245, 296

 く
 公家衆法度 168, 172～5, 179, 191
 国常立尊 121, 123
 久能 89, 92～4, 100, 101, 103, 141, 324
 久能山
 92, 94, 96, 97, 101, 103, 104, 139, 141, 142
 蔵米 207, 208, 210～2, 216, 217, 221～8
 軍神 54, 57, 128, 129, 136, 148, 150

 け
 慶長の役 51, 53, 65, 66, 313
 外宮 117～9, 121, 123, 124, 148
 元寇 133, 135, 147, 148
 源氏改姓 71～3

 こ
 高家 117, 143, 147, 277, 281, 287, 293, 295
 高麗国 58
 国王 18, 19, 22～4, 26～32, 63, 64, 67, 68,
 70, 105, 106, 286, 303, 313, 326, 328, 332
 護国寺 294
 五大老 61, 68

り	
隆光	288, 289, 292~4
良恕法親王	126
る	
ルイス・フロイス	67, 69, 320, 321
れ	
靈元上皇	258, 262, 263, 280~2, 294~8, 300, 301
靈元天皇	16, 183, 187, 239~43, 246, 247, 250~2, 254, 255, 257~9, 262, 263, 272, 274, 295, 301, 329, 345~8
ろ	
六孫王	72
六角広治	277, 280~2, 295
わ	
鷺尾(家)	205, 211, 223, 224, 226
鷺尾隆尹	207, 209, 212, 221
渡邊基綱	291

【事 項】

あ	
天草	7, 149, 181, 319
天照大神	114, 116~8, 121, 123, 124, 126, 128, 129, 131, 136, 148, 322, 327, 328, 332
阿弥陀峯	58, 59, 61
有馬天草	149
い	
家光型神国思想	126, 129, 131, 148
家康型神国思想	113, 126, 129, 131, 148
石原村	205, 207~12, 215~9, 221~6
石山本願寺	18
伊豆国	177
伊勢	8, 119, 129, 136, 148, 319, 322
伊勢神宮	117, 124, 132, 133, 136, 146, 147, 242, 277, 278, 282~4, 294
伊勢例幣使	136
一乗寺(村)	208, 209, 221~5
猪熊事件	175, 179
今里村	209
石清水	136
石清水八幡宮	146, 147
殷	330
院附	259
う	
右大臣	141, 239, 241, 252
え	
易姓革命	330
越後国高田	256
江戸	92, 94, 95, 98, 100, 117~9, 123, 141~3, 147, 149, 151, 180, 181, 184, 186, 205, 213~7, 221~3, 228, 244, 245, 247, 248, 252, 255~7, 276, 280, 281, 285, 287, 298, 300
江戸城	12, 128, 254, 257, 258, 283, 290, 293

216, 218, 219, 222, 224, 225, 245, 246
 広橋兼勝 89, 100, 101, 104, 175, 180
 広橋局 175

ふ

フェルナン・ゲレイロ 62
 藤波友忠 119, 121, 123
 伏見宮貞致親王妃 222, 223
 舟橋相賢 185, 186, 188
 舟橋経賢 183~8, 190
 フランシスコ・パシオ 57
 文王 330

ほ

坊城 211, 223, 224
 坊城家 205, 226
 坊城俊広 207, 208, 210, 212, 219, 221, 223
 細井政次 219
 細川忠利 12
 細川光尚 12
 堀田正俊 248, 249, 255, 257, 282, 284, 285
 堀川康胤 180
 梵舜 58, 60, 61, 64, 92~7, 99~101, 103
 本多政興 219
 本多正純 89, 90, 93, 94

ま

前田玄以 58, 59, 170
 前田利家 54, 61, 62
 前田直勝 184, 214~6, 220, 221, 247
 前田光高 128
 牧野成貞 257, 260, 262
 牧野信成 149
 増田長盛 58
 町口家勝 142
 町口長勝 142
 松平定信 351, 355, 357
 松平輝貞 288
 松平信庸 297, 300
 松平正綱 93
 松本 243, 246
 松本宗条 242
 松本宗子 298

松本宗信 175, 177
 万里小路充房 180
 間部詮房 303

み

見雲重村 183~5, 188, 198
 皆川勘介 277
 壬生家 145
 壬生忠利 118, 141~3

め

明治天皇 358
 明正院 298, 300
 明正天皇 19, 129, 298

も

毛利輝元 12
 木食応其 58, 59

や

柳沢吉保(保明) 276, 282, 287, 288, 291~5,
 300, 301, 306, 330
 柳原資康 258, 260, 261, 277, 280, 281, 295~8, 300
 藪季継 180
 藪嗣孝 244
 藪嗣良 180
 山科言経 57

ゆ

幸仁親王 259

よ

吉田兼俱 103
 吉田兼治 93~7, 99~101
 吉田兼英 100, 101, 104
 吉田兼見 58~60, 97
 吉田家 59~61, 63, 65, 92, 96, 97, 99~101,
 103~5, 119
 淀殿 60
 米倉昌尹 289

113, 114, 116, 124, 125, 127~9, 131, 132, 136~42, 145, 147, 148, 151, 171, 173, 175~9, 261, 283, 284, 313~8, 323~7, 330, 331	
徳川綱条	288
徳川綱豊	282, 288
徳川綱教	288
徳川綱吉	239, 240, 249, 251, 254~8, 260~3, 272, 274~7, 280~9, 291~7, 300~3, 330, 331, 349
徳川秀忠	19, 25, 31, 89~101, 104~6, 131, 136~42, 145, 151, 180, 261, 314~7, 325, 326
徳川和子(東福門院)	19, 141, 180, 186, 222, 223, 314, 351
徳川光貞	288
徳川義直	12, 139, 140
徳川吉宗	285
徳川頼宣	12, 128
徳川頼房	12
徳大寺実久	175, 177
徳大寺実堅	206
徳松	282, 303
戸田氏鐵	61
戸田忠昌	244, 245, 247, 252~4, 256, 257, 260, 262
富小路家	226
豊臣秀次	66
豊臣秀吉	5, 11, 19, 21~9, 31, 32, 51~4, 57~75, 89, 97, 113, 114, 126, 168~71, 175, 313, 314, 316, 318, 322~6
豊臣秀頼	60, 65, 68, 69, 73, 314
ドン・ジョアン・ペレイラ	149
ドン・フランシスコ・デ・カステロ・ブランコ	149
な	
内藤重頼	263, 275
内藤如安	67
永井尚庸	183~8, 190, 212, 213, 215, 216, 221, 222, 224, 225, 245, 246
中井正次	93
中園季定	244

中院通茂	183, 184, 186~8, 190, 207, 212, 215, 216, 218, 221, 222, 224, 225, 245, 348
長宮	298, 300~2
中御門資熙	296, 298
中御門宣衡	180
長村純正	128
中山信吉	93
長東正家	58
成瀬正成	93
難波家	205
難波宗量	207, 209, 210, 219, 241
難波宗勝	175, 177

に

西洞院時成	259
西洞院時良	127
二条昭実	104, 314
二条康道	119, 121, 123, 182, 250, 251
二宮	245, 246
庭田重秀	183

の

濃毘数般国主	106
ノビスバン総督	126

は

萩原兼従	121, 123
畠山基玄	291
服部貞常	245
花園実満	212
葉室頼業	184, 212
林永喜	96, 100
林春斎	139, 140, 142
林羅山	98, 118, 119, 121, 139, 140
万暦帝	32, 63~5, 67, 69, 70, 313

ひ

東園基量	243
東園基賢	184, 212
東山天皇	258, 259, 262, 263, 276, 280, 281, 295~8, 300~3, 345
日野資勝	119, 121, 123, 182
日野弘資	184, 186, 187, 208, 210, 212, 215,

三家 98, 127~9, 131, 148, 150
 三条実通 243
 三条西実条 89, 100, 104, 119, 121, 123, 182
 三条西実教 329
 三宮 298, 303

し

滋野井家 205
 滋野井実光 207, 209, 211, 212, 221~4
 慈光寺冬仲 221
 慈性 95
 島津義久 67
 下冷泉為景 180
 暹邏国王 105, 106
 従一位吉子(北政所) 63, 64
 守澄法親王 132
 白川雅喬 242

す

菅原道真 132, 133
 須田盛輔 296

せ

清閑寺家 205
 清閑寺共綱 207, 208, 219
 清閑寺熙房 207, 219
 西笑承兌 67
 西伯 330
 清和天皇 72, 327
 勢多治勝 245
 仙石久尚 285, 289~91

そ

宗義真 286
 尊純法親王 124, 132

た

醍醐冬基 259
 高井清方 247
 鷹司兼熙 240
 鷹司房子 241, 242, 246, 247
 鷹司房輔 240, 254
 高辻長量 170

高野保春 298, 300
 沢庵宗彭 150
 竹濶季伴 244, 247
 竹屋家 205, 226, 227
 竹屋光久 207, 209~12, 221, 223~5
 伊達綱村 254

ち

千種有維 258, 260, 261
 千種有能 184, 212, 240, 241, 245, 247, 251, 254
 紂王 330
 中納言典侍 245, 248
 朝鮮国王 286
 知楽院忠尊 127

つ

土御門久脩 180
 土御門泰福 221, 259
 土屋数直 225
 土屋政直 256~63, 275, 348, 352
 筒井順慶 322
 経基の王 72
 鶴姫 293

て

天海 89~101, 103~5, 116, 124, 127, 132, 325, 326

と

土井利勝 93
 藤堂高虎 351
 徳川家継 31
 徳川家綱 116, 137~40, 142, 151, 187, 246, 282, 283, 285, 286, 290, 328~30
 徳川家斉 357, 358
 徳川家宣 29, 31, 302, 303, 331, 332
 徳川家光 9, 12, 19, 31, 114~9, 121, 123~9, 131~3, 135~51, 182, 261, 284, 286, 315
 ~7, 326~8, 330, 331
 徳川家茂 31
 徳川家康 11, 18, 19, 22~7, 29~31, 53, 54, 61~3, 65, 68, 70~5, 89~101, 103~6,

押小路師定	141～3
愛宕通福	245
織田信雄	322
織田信長	19, 22, 24, 28, 29, 67, 75, 314, 322
尾張(徳川)光友	116
女一宮	183, 184

か

甲斐正永	289～91
覚彦	293, 294
花山院定誠	240～2, 245, 247, 250～5, 259
花山院忠長	175, 177
勸修寺経広	183, 185
勸修寺経慶	212, 213, 244, 248, 249
勸修寺晴豊	176
勸修寺瑠璃	183～5
ガスパル・コエリュ	323
片山将監	142
加藤泰重	289～91
兼安備後	175, 177, 178
烏丸光広	100, 175, 177
唐橋局	175
甘露寺方長	243, 251, 255, 347

き

義演	58, 59
菊亭公規	243
菊亭伊季	297
菊亭晴季	170
北政所(高台院)	63, 65, 70, 320, 323
北畠親房	146
木俣清左衛門	9, 13
吉良家	29

く

九条忠栄	176
久世広之	225
久留嶋通貞	257

け

桂昌院(綱吉母子)	276, 277, 280～2, 295～7, 303
-----------	-----------------------------

こ

光悦(本阿弥光悦)	180
光格天皇	351, 357, 358
公弁法親王	292～4
孝明天皇	358
久我通誠	297, 298
後光明天皇	131, 137, 138
後土御門天皇	239
小西行長(アゴスチイノ)	70
近衛前子	180
近衛前久	67
近衛信輔	170
近衛信尋	119, 121
近衛基熙	170, 239, 240, 242, 252～4, 275, 296～8, 302, 303
五宮	

241～3, 246, 247, 249～52, 254, 255, 263

後水尾院	298, 300
後水尾上皇	117～9, 123, 124, 126～8, 132, 141, 182, 326, 327
後水尾天皇	18, 25, 95, 98, 104, 180, 298, 314, 325, 326, 351
後水尾法皇	183, 184, 186, 187, 242, 243, 245, 246, 252, 329, 345～7
五味豊旨	217～20, 225, 226
後陽成天皇	18, 19, 25, 27, 52, 53, 58～62, 65～8, 70, 71, 74, 175, 177, 179, 313, 314, 324～6

さ

最純	292～4
最澄	116
三枝守輝	256
酒井忠勝	
	121, 127, 129, 131, 147, 261, 314, 315, 330
酒井忠清	225
酒井忠胤	291
榊原清久(照久)	101, 103
嵯峨天皇	121
識仁親王	250
誠仁親王	169
佐野盛綱	257

索引

【人 名】

あ

秋子内親王	298
秋元喬朝(喬知)	285, 289
秋元泰朝	93
浅野長政	58
朝仁親王	258
足利義昭	71
足利義政	72
足利義満	26, 27
飛鳥井少将	177
飛鳥井雅章	212, 213
飛鳥井雅宣	141, 142
飛鳥井雅冬	243
跡部良隆	247
阿野実顕	121
阿野季信	243
油小路隆貞	212, 244
阿部重次	118, 119
阿部正武	256, 257, 260, 262, 285, 289
阿部正能	225
新井白石	31, 273, 303, 331, 332
荒木田経盛	277, 282
安藤直次	93

い

井伊直孝	8~10, 13
石谷武清	214~9, 221
石川成久	243, 247
石田三成	54, 58, 61
以心崇伝	89~99, 105, 106

板倉勝重	92, 99, 104, 176
板倉重矩	183, 328, 329, 348
板倉重昌	93, 96, 100
板倉重宗	100, 119, 124, 182
一条兼遐	119
一条冬経(兼輝)	239~52, 254~6, 258, 261, 262
一宮	242~52, 254, 255, 263
稲葉正則	225, 254
稲葉正休	255
稲葉正往	251, 255~7, 262, 263
井上重次	247
井上政重	125, 149
井上正利	147
猪熊教利	175~7
今川直房	143, 144, 147
今出川経季	135, 141~4, 147, 150
今出川晴季	104

お

大炊御門頼国	175, 177
正親町公通	170, 296, 297
正親町家	295
正親町天皇	18, 19, 27
大久保忠朝	257, 260, 262, 286, 293
太田牛一	69, 177
大館家氏	72
大友義孝	291
小笠原長重	281, 296
岡部勝重	219
荻原重秀	289, 290, 292
奥田忠信	289~91
小倉	246, 249, 250
小倉公連	244, 247
小倉美起	241, 242, 244, 245, 247, 248, 252, 263

◎著者略歴◎

野村 玄（のむら げん）

1976年 大阪府に生まれる

2004年 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了

現 在 防衛大学校人文社会科学群人間文化学科准教授
〔著書〕

『日本近世国家の確立と天皇』（清文堂、2006年）

『徳川家光——我等は固よりの将軍に候——』（ミネルヴァ書房、2013年）

てん か びと しんかく か てんのう
天下人の神格化と天皇

2015(平成27)年1月9日発行

定価：本体7,000円(税別)

著 者 野 村 玄

発行者 田 中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-751-1781(代表)

装 幀 佐々木歩

印 刷
製 本 亜細亜印刷株式会社

©G.Nomura

ISBN978-4-7842-1781-6 C3021